

平成 25 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490600127	事業の開始年月日	平成24年2月1日
		指定年月日	平成25年10月1日
法人名	株式会社シリセス		
事業所名	グループホーム星川園		
所在地	(〒240-0064) 神奈川県横浜市保土ヶ谷区峰岡町1-13-1 サンワールドビル3F		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	平成26年3月10日	評価結果 市町村受理日	平成26年5月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 自由を尊重しながら毎日のレクに力を入れている（利用者による外出先の決定など）。 - 自分が興味を持てる物、楽しみ・生きがいを持って日々生きられる様に支援している（行事の作品作り、歌、紙芝居、編み物、本読み、縫い物等）。 - 常に健康で元気に楽しく毎日を送れる様、近隣への散歩や商店街への買物を行い、体調不良の利用者を早い内に病院へお連れし、重くならない様に対応している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成26年3月24日	評価機関 評価決定日	平成26年4月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】 ◇丁寧なモニタリングとケアプランの作成 ・毎月管理者とケアマネージャー、スタッフがモニタリングを行ってケアプランを作成している。ケアプランの有効期間を3か月としており、ケアマネージャーは、毎月利用者宅を訪問して家族に事業所内での利用者の現状を報告し、家族から意見や希望を聴いてモニタリングに反映している。 ◇地域との活発な交流 ・近くにある児童施設の家庭学園の生徒が、総合学習の一環として月1～2回事業所を訪問して利用者と交流している。 ・事業所のバーベキュー大会には、10数名の生徒が手伝いに来ており、生徒の中には将来介護士を目指す子もいる。 【事業所が工夫している点】 ◇利用者の希望を入れた外出や食事の支援 ・利用者の希望や意見を聞いてその実現に努めている。朝夕の献立やおやつにも希望を取り入れており、要望を聞いて回転すしやイチゴ狩り、又、近くのペットショップなどにも出かけている。 ◇小規模多機能施設との利用者間の交流 ・併設する小規模多機能施設の利用者と囲碁、将棋を行ったり、一緒に外出して交流を図っている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム星川園
ユニット名	ー

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々との交流を深める為、イベント等に参加し、認知症に対する理解を深めて頂き、施設の円滑な運営に協力を得られる様スタッフ共々努力している。	・スタッフミーティングで理念の「気遣う心・和める心」を確認し合い、利用者に気を配り寄り添って、毎日がこころ穏やかに過ごせるように支援している。スタッフの異動がなく、利用者と馴染みの関係ができていて和気藹々と暮らしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも入会し、ゴミ当番・夏祭り・防災訓練・餅つき大会等の地域活動に積極的に参加し、近くの小学校の運動会を観戦している。	・町内会に入会し、地域の行事に参加している。夏祭りには、利用者と一緒にお祝いを町内会に届けている。 ・総合学習の一環として、近くの更生施設の家庭学園から生徒が月1～2回訪問し利用者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生等の職業体験やボランティアの方々に施設に来て頂いている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で頂いた意見については、スタッフ会議の議題として取り入れ、改善し向上を図っている。地域で活動している方々に意見を頂き活きた意見を取り入れ、サービス向上に努力している。	・2か月毎に、併設する小規模多機能型事業所と合同で、家族代表や自治会長、民生委員、地域包括支援センター、区の職員が参加して開催している。 ・事業所の現状を報告後、参加者から意見を得て運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設や入居者の状態を常に担当者に報告をし、施設に来て頂いたり役所に出向いている。	・区の保護課の職員が利用者の現状把握のため事業所を訪れている。 ・高齢課には、運営推進会議の議事録を持参して報告し、交流を密にしており、大学の研修生の事業所見学を依頼されて引き受けた事例もある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという事を全ての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。	・管理者が市主催の身体拘束防止の研修に参加し、結果をスタッフ会議で報告して、身体拘束をしないケアを実践している。 ・管理者は、スタッフの何気ない言動が身体拘束に当たると気付けば、その場で注意している。 ・玄関は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が連絡を密に取り、利用者の変化等の情報の共有化に努め、虐待は絶対にあってはならないとの信念を持っている。外泊から戻られた利用者様には家での話を良く聞き、ボディチェック等にも気を使っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の方と利用者様との関係が円滑に行く様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者、家族への説明などには理解納得のいくまで行い、その後契約を結んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に御家族や利用者様の話を伺い、気楽にスタッフに声をかけて頂ける様に面会時の声かけ、毎月のお便り等でお知らせしている。	・利用者の意見は、管理者が利用者の居室を訪れて話を聴いている。スタッフは、夜勤の折利用者と1対1で話し合って、意見や要望を聴取している。 ・家族の来訪時には言葉を掛けて、意見や要望の把握に努めている。	・利用者や家族が、意見や要望を気軽に表明できる機会を増やすため、ご意見箱の設置が望まれます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見や提案をまとめ、スタッフ会議で報告・話し合い検討し、反映させている。 スタッフが意見を述べやすい様な環境を整えている。	・管理者は、職員の提案はまず実施してみることにしており、主任が職員の意見や提案を纏めて、スタッフ会議で検討している。 ・小規模多機能型事業所とゴミ当番の分担を決め、ゴム手袋等の小物の収納場所を設けた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員、個々の生活環境にも気を配り、働きやすい様考慮している。職員が向上心を持って働ける職場作りを心掛けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設側からの研修依頼も多く取り入れ、スタッフ希望の研修においても費用の一部を負担し、推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交換実習の取り組みを行い、他施設での良い所を持ち帰り、自施設での向上へと繋げている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な気持ちを少しでも取り除き、施設での生活に安心して馴染んで頂ける様に傾聴を行い、他利用者様とのコミュニケーションを円滑に図れる様な環境作り、信頼関係の基盤作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や面談を通じ、本人・家族の状況把握を積極的に行い、要望等を十分にお聞きし、本人・家族共に安心して頂ける関係作りを努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人・ご家族と面接し、その方々にとってグループホーム入所が最善であるか見極めさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が利用者様に助けて頂いたり、教えて頂ける場面を作っている。一緒に料理、掃除、買物を行い得意分野で力を発揮して頂く、生活の技や生活文化の大切さを教えて頂き、共に支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回の手紙を出し、利用者様の近況をお知らせしている、御本人の希望、要望なども面会時や電話連絡し御家族との良い関係が築ける様にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前の馴染みの人や、以前の勤務先の方に来て頂いたり、出かけたりし、一緒に食事を取ったりしている。手紙、年賀状を書く等、関係が途切れない様支援に努めている。	・入居時に生活歴を聞き、利用者の馴染の人との関係の継続を大切にしている。 ・利用者には地元出身者が多く、行きつけの美容院を利用し、馴染みの店で買物をするなど、これまでの関係が切れないように支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は場面により介入しすぎない様、孤立しがちな利用者様が交える機会を作るようにしている。利用者様同士の助け合いや気持ちの支え合いが出来る様な支援を日常的に行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者が入院等しても毎日のお見舞いや面会を欠かさず行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	言葉だけでなく、利用者様の表情・動作からも御本人の気持ちを推察し、職員で話し合いその人らしい暮らしや力を発揮出来る様にしている。	・スタッフは傾聴に徹し、利用者のお話を時間を掛けて聴くようにしている。表出困難な方には表情や仕草から思いを汲み取る努力をしている。 ・「ご利用者の快適情報調査票」を記入してスタッフ間で共有し、ケアに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話、回想法、面会の方々から今までの生活歴や人生観を把握し、施設での生活に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家庭で過ごしていた様に、ゆとりを持った生活、心身共に健康で穏やかに生活出来る様にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング時に家族や御本人の希望や思いを傾聴し、又スタッフからの意見を聞き入れ、より良い介護計画を作成出来る様に対応している。	・ケアマネージャーは、毎月利用者宅を訪問して、家族から意見を聴取し、管理者、スタッフとのモニタリングに反映して介護計画を作成している。 ・ケアプランは3か月ごとに見直し、状況により都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝、当日のスタッフ全員で申し送りを行い、入居者全員の状況を把握して記録し、スタッフ間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の希望に添った誕生祝、日常ではドライブや買物、美容院等々への外出。心身のストレス等を作らないような柔軟かつ多様なサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	初詣に近くの神社へのお参り、地域の催し物への参加、ボランティアによる交流会、学生さんの授業受け入れ等を通じ、利用者様の楽しみを増やす支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医療、訪問歯科、訪問看護を受け何時でも、どんな時でも受け入れて頂ける安心感がある	・かかりつけ医での受診を支援しているが、利用者は家族の同意を得て協力医と契約している。内科医が月2回、歯科医と看護師は毎週訪問して、利用者の健康管理に当たっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師に利用者様の健康状況、心身状況等を相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携病院、医院長、看護師長、相談員との信頼関係が築けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針は、本人や家族と話し合い方針を共有している。	・入居時、利用者と家族に重度化や終末期に向けた方針を文書で説明している。看取りが必要なときは、家族、医師、看護師、事業所で今後の方針を話し合って対応している。 ・今年2月に1名の利用者の看取りを行った実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員の立会いをして頂き、救急救命の訓練を定期的に行っている。フロア内に緊急時のマニュアルを掲示し全職員がいつでも対応出来るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員指導の下、地域の方、全職員参加の訓練を年2回行っている。	・年2回避難訓練を実施しており、訓練時には近隣住民に参加を呼び掛け、毎回3,4名の参加がある。 ・訓練時には、設置してあるAED操作の訓練も行っている。 ・備蓄品は飲料、食料、防寒具、軍手等を備えている。ヘルメットは各居室に常備している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を認め、誇りやプライバシーを損なわない介護を実践し、配慮ある行動に努めている。	・利用者には人生の先輩として接し、強制はせず、できるだけ利用者の発言を待つようにしている。 ・個人情報保護方針を掲示し、職員だけでなくボランティアにも説明している。書類やパソコンも鍵がかかる書棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様ご本人の希望や思いを表現出来る事を大切にし、それを促す取り組みを日常的に行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様が自由に自分のペースを保ちながら暮らせる様に支えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の希望に応じて美容院に行ったり、化粧品や衣類を購入したり、毛染め等を行う支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しんで食事が出来る様、好みを取り入れ、食事作り・配膳・下膳・片付け等を利用者様と職員が共に行っている。	・利用者の好みを参考に献立を立てている。利用者は、もやしのひげ取りなどの食事作り、テーブル拭きや下膳などを手伝い、職員と一緒に食事を楽しんでいる。 ・お好み焼きやたこ焼き作り、寿司・ラーメンなどの外食の他、手作り弁当持参で遠出もしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の健康状態に合った食事を作り、栄養面にも十分配慮し、摂取量・水分量もわかる様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯みがきを誘導し行う。義歯は夕食後洗浄剤にてケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合った声かけ、見守り、介助をしトイレでの排泄・排便を促している。	・排泄チェック表をもとに、状況に応じてさりげなく声かけし、トイレに誘導している。 ・リハビリパンツの利用者にも、できるだけ布パンツで快適に過ごしてもらうように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には、多くの野菜を取入れ、五穀米や玄米等を食べて頂き便秘予防に努めている。薬をなるべく使わず運動の働きかけを行い、その都度個々に応じた取り組みをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は決まっているが、入居者の方の体調や要望に応じた対応をしている。他便失禁時	・週2回の入浴が原則で、利用者の体調や状況に応じて対応している。 ・一番風呂に、又最後にゆったり入りたいとの利用者の希望に沿うようにしている。 ・菖蒲湯やゆず湯、入浴剤を用いて入浴を楽しめるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜眠れない利用者様には一日の生活リズムを通した安眠策を検討している。気持ち良く眠れる様、寝具の定期クリーニング・室温調整等に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋がありスタッフは薬について把握し、薬局から届いた薬は、看護師・管理者・ケアマネが薬箱にセットする。服用の記録と処方に変化のある場合には送りノートに書き報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の楽しみや出番を思い出せる様な場面作り等の支援を行っている。趣味に合わせて花の手入れ・読書・将棋・おやつ作り・編み物等で楽しんで頂き、気分転換に散歩、買物、ペットとの交流を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望を聞き、買い物やドライブ、外食等都合のつく限り支援している。	・日常的に近くの公園への散歩や一人ひとりの希望を聞いて、買い物、美容院、ペットショップ、外食にも行っている。 ・季節に応じて花見や初詣などに出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の金銭管理を御本人が行える様、利用者様一人ひとりの力量に応じて支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御利用者様が手紙や電話を日常的に利用できる様にプライバシーに配慮しつつ支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時に応じた音楽を流し、季節の花を飾り、光が強い窓にはカーテンをつけている。外出した時等の写真を貼る等し、居心地良い環境作りをしている。	・居間には、エアコンと加湿器に加え濡れタオルで適湿温に保たれている。掃除は、利用者もモップ掛けを手伝い、アルコール噴霧や手すりの消毒も徹底している。 ・季節の花を生け壁に行事の写真、利用者手作りの作品を飾り、居心地良く過ごせるように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席やソファにて仲良い方同士が会話をしたり、好きな音楽を聴いたりしている。一人になりたい時には部屋に戻り、TVや新聞を見たり休んでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前住んでいた所のように使い慣れた物を置き、ご本人の意向に添った物を取り入れている。	・使い慣れたタンスやテレビ、仏壇などを持ち込み、自作の折り紙の花などを飾り、それぞれ利用者の趣味にあった居室になっている。 ・担当職員が、定期的にシーツ交換や衣替えをして、清潔で居心地よく暮らせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下等には手すりを付け、浴室には滑らないシートを張り、危険のない自立した生活が送れる様心掛けている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム星川園

作成日 平成26年4月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	利用者や家族が意見や要望を気軽に表明できる機会を増やすため、意見箱の設置が望まれる。	意見箱の設置。	利用者皿、家族へ説明し、気軽に意見箱を利用していただけるようにする。	1週間
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。